九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

スタンダール『イタリア絵画史』トゥルヌー本 : 著者の書き込みの転写と考察

髙木, 信宏
九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

河田, 典子
九州大学大学院人文科学府

https://doi.org/10.15017/7178820

出版情報：文學研究. 121, pp.1-39, 2024-03-18. Faculty of Humanities, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

スタンダール『イタリア絵画史』トゥルヌー本
――著者の書き込みの転写と考察――

髙　木　信　宏
河　田　典　子

多くの作家の例に漏れず、スタンダールもまた自著の上梓後、第２版の出版に向けて、手元の初版本に加除の訂正や修正のアイデア、私生活に関する備忘などを書き込むのが常であった。しかも、そうした用途のための書冊を彼が特別に誂えたことも稀ではない。たとえば、1839年公刊の『パルムの僧院』の場合、頁の余白に書き込みをした初版本（八折り判・２巻）だけでなく、初版本に白紙を綴じ込んで装丁させた一揃い、さらには同時代の文豪オノレ・ド・バルザックの論評『ベール氏研究』（1840年）に触発されて新たに装丁させた５巻からなる白紙綴込みの一組がある。これらのいわゆる自家用本は、最初の発見者ないしは所有者の名前にちなみ、スタンダール研究者からはそれぞれ「アザール本 l'exemplaire Hazard」「シャペール本 l'exemplaire Chaper」「ロワイエ本 l'exemplaire Royer」と慣例的に呼ばれている。

小論がとりあげる『イタリア絵画史』（1817年初版刊行、以下『絵画史』と略記）の「トゥルヌー本 l'exemplaire Tourneux」[1] もまた、スタンダールの少なからぬ書き込みが入った装本である。「トゥルヌー」とは、最初の発見者にして所有者でもあった美術史家モーリス・トゥルヌー[2]（1849-1917）の名に由来する。彼は1885年12月10日付の『ランテルメディエール・デ・シェルシュール・エ・キュリウー』誌上に次の報告をあげた――「私は数カ月前にセーヌ河岸で初版〔『絵画史』〕の第１巻を入手した（第２巻はどこにあるのか？）。これを価値あるものにしているのは、少なからぬ印刷上の訂正（そのうちのいくつかは製本職人のナイフで損なわれている）、さらには著者の力強い筆致で数葉の見返しの上に記されたリストと覚書である」[3]。スタンダール

の文声はまださほど高くなく、むしろ知る人ぞ知るマイナーポエットに過ぎなかった当時にあって、しかも著者名には「M. B. A. A.」とのみ記載された一種の匿名本であったにもかかわらず、著者の正体と同装本に特有の価値とを的確に見抜いたトゥルヌーの慧眼は強調しておかねばならない。美術史家としての仕事の傍ら、『ラマトゥール・ドトグラフ』誌に寄稿し、テオフィル・ゴーティエやプロスペル・メリメの伝記を手がけ、ドゥニ・ディドロとエカチェリーナ２世の往復書簡集を編纂するなど、文学の世界にも造詣が深いトゥルヌーだったからこその発見だといえようか。

トゥルヌーがセーヌ河岸のブキニストで偶然手にとり、その存在を公にした一冊の『絵画史』は、しかしながら彼の死後、長らく行方知れずとなってしまう。オノレ・シャンピオン書店版『スタンダール全集』所収の同作を校訂したポール・アルブレは、トゥルヌー本を実見し、本文の校合に用いることができたものの[4]、爾来ヴィクトル・デル・リットが同本は散逸してしまったと断じたように[5]、スタンダール研究者はその所在をつかめずにいたのである。

このように存在が忘れ去られようとしているなか、トゥルヌー本が再び斯界に姿を現す。ジャン＝ルイ・ウーヴラールが、ナント市立図書館に同本が所蔵されていることを突き止め、その報告を主要な書き込みの転写と併せて、2017年に『ラネ・スタンダリエンヌ』誌上で発表したのである。ウーヴラールによれば、書籍商ジョルジュ・クールヴィルがトゥルヌー本をセーヌ川河岸のブキニストで再発見し、1964年にナント市立図書館に寄贈したのだという[6]。つまり、トゥルヌー本は長きにわたり図書館の人目につかない書架の一隅で眠っていたのだった。

当然のことながら、トゥルヌー本そのものを対象にした研究がこれまで充分に行われてきたとは言い難い。アルブレの批評校訂版以後、同本を利用できた先行研究は皆無であり、ましてやトゥルヌー本そのものを対象にした論考となると前述のウーヴラールのものしかなかった。こうしたなか、『絵画史』初版の異本に関する研究を進めていた河田典子は、ナント市立図書館よ

りトゥルヌー本の表紙や見返しを含む全頁の画像を入手し、スタンダールの書簡や日記の考察にもとづきながら、同本に散見する書き込みの内容を分析した。その結果、トゥルヌー本は、スタンダールの他の手沢本のように改訂作業のために初版本を利用したものではなく、『絵画史』初版の校正刷りを製本させてできた自家用本であるという仮説を立てるにいたったのである。小論では、トゥルヌー本に残された書き込みの網羅的な転写と記述内容の分析によって河田の仮説のさらなる検証を試みるが、科研費プロジェクトで『パルムの僧院』の手沢本研究に取り組む髙木信宏が、同研究でえた知見に照らしつつ、河田による転写を批判的に検分し、個々の書き込みの討究に共同であたったことを付記しておく。

Ⅰ．先行研究の問題点

前述のとおり、『絵画史』に関するこれまでの研究においてトゥルヌー本が研究対象として中心的に扱われることはなかったと言っていい。長らく研究者間で同本は散逸されたと考えられてきたからだが、またトゥルヌー本を実際に調査した数少ない研究者についても、けっしてその特異性までを認識していたわけではない。アルブレは『絵画史』校訂版において、おもに初版との異文を紹介しつつトゥルヌー本に言及しているが、関心の焦点は『絵画史』初版の差し替え刷りに絞られている。しかもアルブレは「トゥルヌー夫人所有の刊本」について、「発見されているもののなかで、差し替え刷り前の〔つまり差し替え刷りなしの〕唯一の本」[7] という解釈に留まっており、同本の成立にまでは踏み込んでいない[8]。同様にウーヴラールも、先に挙げた論文のなかでトゥルヌー本の特異性をいささかも検討してはいないのである。

おそらく、いずれの先行研究も、トゥルヌー本を単なる手沢本の一種と見做してきたのではあるまいか。研究者のあいだでは、スタンダールが『絵画史』初版本に備忘録を書き込んだ「ドゥーセ本 l'exemplaire Doucet」[9] と呼ばれる自家用本の例が共有されているからである。余白に多くの書き込みが残されているトゥルヌー本も、それと同類の手沢本と見做されたふしがある。

しかしながら、我々は同本のテクストと初版のそれとの異同や余白への書き込みを調査し、さらにマテリアルな特徴の検討をとおして、トゥルヌー本の書き込みが、自家用本に通例の、刊行テクストへの事後の手直しではなく、むしろ『絵画史』の出版に向けてテクストを仕上げるための訂正であるという仮説にいたった。換言するならば、トゥルヌー本は初版刊本の「前＝テクスト」である点において、従来の自家用本と明らかに峻別されるのである。

なお、トゥルヌー本の考察にあたり、照合するのはフランス国立図書館所蔵の『絵画史』初版（Cote N° : IFN-8626845. 以下、国立図書館本と略記）[10]の第１巻とする。現在、複数の『絵画史』初版刊本がインターネットで閲覧可能になっており、我々は様々な刊本を比較、考証することが可能である。そのなかでも国立図書館本はトゥルヌー本と構成面において重要な共通点を有しており[11]、後者の調査のための比較参考資料に値すると我々は判断した。

Ⅱ．テクストの先行性

トゥルヌー本のテクストが初版刊本のテクストに先行するという仮説は、次の２点から立証されよう。まず同本には誤字や脱字など、印刷に由来する誤植が少なからず含まれている点、次にそれらの誤植が初版刊本の当該箇所では訂正されている点である。

たとえば、トゥルヌー本 xvj 頁[12]には14世紀頃のイタリア傭兵隊長カストルッチョ・カストラカーニの名を誤って綴った « costruccio castracani » という表記がある（小論付属の転写３番）。他方、国立図書館本の同頁では、« Castruccio Castracani » と綴りの誤植は訂正され、かつ頭文字を大文字に変更した表記が認められる。同様に154頁にはゲーテの小説『若きウェルテルの悩み』の主人公名ウェルテル（仏語綴りでは Werther）に誤植があり、« Werter » と表記されている（転写45番）。同頁を国立図書館本で確認すると、当該箇所は正しく « Werther » に正されている。また、トゥルヌー本182-184頁にはキリスト教聖人の名が多く脱落している例が見られるが、国立図書館本では次に示すように欠落がすべて補完され、文章にも軽微な改変が

認められる（転写54番）。

トゥルヌー本

tandis que saint... exprime son étonnement, son indignation et son horreur, passant le bras gauche par-derrière les épaules de saint..., avertit saint.... que le traître est Judas. Saint..., qui est déjà instruit, regarde celui-ci avec horreur. Saint..., qui est au bout de la table, à la gauche du spectateur, ne peut croire cette horrible nouvelle [...] [13)]

国立図書館本

Saint Jacques-le-Mineur passant le bras gauche par-dessus l'épaule de saint André, avertit saint Pierre que le traître est à ses côtés. Saint André regarde Judas avec horreur. Saint Barthelemy, qui est au bout de la table, à la gauche du spectateur s'est levé pour mieux voir le traître.[14)]

このように、トゥルヌー本と国立図書館本のそれぞれのテクストを比較するならば、前者に多くの異文が確認できるだけでなく、両者のテクストが成立した順序もまた推定できよう。なぜなら、トゥルヌー本のテクストが含む誤字や脱字等の誤植がことごとく、初版本文の当該箇所において訂正されているのだから。それゆえ、トゥルヌー本のテクストの成立が初版のそれに先行することはもはや疑いえないのである。

Ⅲ．校正とトゥルヌー本の成立

ところで、当時、著者による校正は、頁数の入った組付け後の校正刷りでおこない、初校のみで校了するのが慣例であった（棒組段階の校正は印刷工が担当）[15)]。校了後にどうしても訂正しなければならない重大な誤植が見つかった場合には、差し替え刷りという印刷上の一手法に訴えるか、もしくは正誤表を付すしか手立てがなかった。前者は、校了後に見つかった誤植や不

都合な文章を訂正するために、問題箇所を含む表裏４頁ないしは表裏２頁を刷り直し、その新たに印刷された紙葉を、訂正を要する紙葉に差し替えるのである。

前掲の３例では、国立図書館本の当該頁に差し替え刷りを示す記号が印字されているため、いずれの誤植も差し替え刷りによって訂正されたと考えて間違いない。したがって、差し替え刷りによる訂正が入っていないトゥルヌー本の本文は国立図書館本（＝初版テクスト）の単に「前テクスト」であるというだけでは充分ではなく、出版・印刷の観点から捉えれば、まさしくアルブレのいう「差し替え刷り前の」テクストなのである。

ただし、トゥルヌー本以外にも、「差し替え刷り前の」刊本が存在することは早くから知られていた。1937年にアルブレはスタンダールのピエール・ディド宛未刊書簡を公にしたが、同書簡にはスタンダールが書店主ディドに差し替え刷りのない本を200部刷るように依頼するくだりがある[16]。おそらくミラノ本は、この依頼で生まれた特別枠の刊本であろう[17]。したがって、「発見されたもののなかで、差し替え刷り前の唯一の本」（強調は引用者）というアルブレの見解は今日ではもはや正しくない――ただしアルブレが『イタリア絵画史』を校訂した時点ではミラノ本はまだ未発見であり[18]、彼が差し替え刷りなしの刊本の存在を知るのは前述の書簡を発見した1937年頃であることを強調しておこう[19]。

それではトゥルヌー本は、ミラノ本と同時に誕生した差し替え刷りのない刊本なのかというと、けっしてそうではあるまい。というのも、両者の書き込みが性格を異にすることは一目瞭然だからだ。端的に言えば、トゥルヌー本の書き込みのほうは誤植の訂正ないしは不都合な記述の修正を目的としているのに対し、ミラノ本に認められる訂正はどれも印刷後に初版と照合して訂正箇所を転記したものであると推定できるからである[20]。かかる両者の相違に立脚することによって、我々はアルブレによる「発見されたもののなかで、差し替え刷り前の唯一の本」という評言をよりいっそう厳密に、印刷工程上の時系列において理解することが可能となろう。つまりトゥルヌー本と

は、校了後に製本された、差し替え刷りなしの刊本ではなく、印刷上の前段階、まさに著者用の校正刷りそのものを綴じて装丁したものにほかならない。

じっさいにトゥルヌー本の書き込みを具体的に見ていくならば、同本が製本された校正刷りであるという事実ばかりか、校正刷りを最後まで手元に残したスタンダールの事情をも窺い知ることができよう。さらには、トゥルヌー本の重要な特色である、ページ余白への書き込みを注視するならば、校正刷りを装丁させたスタンダールの意図に迫れるであろうが、まずはトゥルヌー本の書き込みが校正における訂正指示にほかならぬことから確認していこう。

前掲した転写３番 ── トゥルヌー本にはカストルッチョ・カストラカニの名の誤植の傍に、２種類の書き込みが認められる。最初のものは、本文« costruccio »の一番目の« o »に引かれた削除斜線、そして二つ目は余白に書き込まれた« /a »という記述である。これらが合わさり、« costruccio »という誤った綴りを、« castruccio »に正すように促す指示となっている。転写45番も同様、本文« Werter »の« t »の後に挿入記号が書き込まれ、余白には« / h »と記述されている。言うまでもなく、« Werter »を« Werther »に改めさせるための指示である。これら訂正指示の入った誤植は、国立図書館本の当該箇所においてそれぞれ正確に訂されている。

さらに、聖人の名前が欠落していた前掲の転写54番では、ページ余白に興味深い文言がスタンダール自身の手によって書き記されている ──「差し替え刷り、かなり遅れて〔ディド書店に〕送った名前を埋めるために」[21)]。前述したように、当該の箇所の名前の脱落は実際に国立図書館本において指示書きどおり、差し替え刷りによって正しく補完されている。つまり、トゥルヌー本の欠落は、著者の指示どおりの修正方法によって訂正されているのである。

以上の例から、トゥルヌー本の余白にスタンダールが書き入れた訂正の指示が、初版刊本に反映されている事実が確認できたであろう。さらに、転写54番と同様、「差し替え刷り」という修正方法を示した手書きのメモがトゥルヌー本の xix 頁、xxvij 頁、xxxiv 頁、l 頁、lx 頁、60頁、170頁、184頁、187

頁、220頁にも認められることからも、著者がいくつかの重大な誤植について差し替え刷りを依頼したことは間違いない。これこそ、我々がトゥルヌー本とは著者用の校正刷りを綴じさせた自家用の装本であると推定する根拠である。

付言するならば、トゥルヌー本の余白に書き込まれた修正指示にほとんど常に校正記号が採用されている点も我々の仮説を補強してくれよう。たとえば、印刷上の不要な語を取り除くための校正記号として「デレアトゥール［δ］」が挙げられる。この記号がトゥルヌー本余白にしばしば書き込まれている（xxxiij 頁、liv 頁、lv 頁、lxiij 頁、12頁、60頁、61頁、67頁、103頁、116頁、131頁、146頁、147頁、167頁、186頁に認められる）。

また、実際の校正プロセスが垣間見られるような書き込みも存在する。トゥルヌー本201頁（転写59番）には、本文の « médiocres » に削除斜線が引かれ、« modernes　/ » と訂正されている。訂正前の文章では「我々の凡庸な画家」とあるのが、余白の書き込みによって「我々の現代画家」という表現が正しいことが分かる。文意を大幅に左右するこの重大な誤植に筆者も業を煮やしたのか、当該頁の上部に目立つ文字でこう記している ── 「原稿で確認すること」。少なくとも筆者は原稿において「我々の凡庸な画家」という表現は用いておらず、組版の際の植字工の手落ちによって誤植が引き起こされたという内実が見えてこよう。「原稿で確認すること」という表現は、この手書きメモが印刷所に向けた指示書きであることを裏付けているのだ。

Ⅳ．マテリアルな特徴

さて、我々の仮説は、トゥルヌー本のマテリアルな特徴の調査結果からも検証可能である。同本の特色として第一に挙げられるのは、巻末の見返しに綴じこまれた白紙の枚数が非常に多い点である。国立図書館本では巻末の見返しは８頁（４葉）なのに対して、トゥルヌー本でははるかに多い24頁（12葉）を数える。また、後者の見返しには、明らかに作家自身のための覚書が残されている。たとえば、見返しの最初の頁には「1817年７月20日、ボージョン山から戻って」という備忘が、また３頁から５頁にかけては『絵画史』の

献呈者リストが記されている（以上については小論付属の転写を参照）。こうした特徴は、スタンダールがトゥルヌー本を自家用に特別に装丁させたことを示していよう。見返しの18頁には「1817年９月５日」[22] という『絵画史』公刊後の日付の備忘もあり、少なくとも同本は1817年７月から９月の間には作家の手元に置かれ、見返しは作家の個人的な覚書のために使われていたと推定できる。

他方、トゥルヌー本が従来の自家用本と一線を画すのは、その装本の特殊性である。我々は前者の少なくない書き込み部分の文字が途切れているのを確認した。たとえば、トゥルヌー本の xxiv 頁の書き込みでは、« ...lique »« ...ché et l'amour » といった具合に、各単語の前半部は紙葉裁断のため無くなっている。このように一部が裁断された書き込みは、例に挙げたものの他にも、xxvij 頁、xxxiv 頁、l 頁、liv 頁、lx 頁、22頁、60頁、61頁、67頁、146頁、151頁、182頁、183頁、184頁、187頁、201頁、209頁に認められる。

では、これらの書き込みに欠如が生じたのはなぜか。このことが示すのは、スタンダールがトゥルヌー本の本文余白に諸々の訂正を書き込んだのが、製本以前である事実にほかならない。スタンダールは折丁状態の校正刷りに訂正を書き入れ、校了後に装丁工房に依頼し、手元に残った折丁を綴じさせ、装本に仕立てたのである。このとき折丁が作家の想定より少し小さめに裁断されたために、途切れた書き込みが発生するにいたった。しかして、未製本の、つまり折丁状態の校正刷りに、著者が誤植等の訂正を書き込むというこの特殊な状況を説明するならば、我々は著者校正以外に思いつかないのである。

かくして、我々の知るトゥルヌー本が成立した。まず、著者は折丁状態の校正刷りに誤植等の訂正を書きこむ。ついで、それらの折丁を自家用に装本させる。このとき、見返しを多めにするよう工房に依頼したのであろうか、通常よりはるかに多い24頁の白紙が綴じこまれている。そして最後に、見返しに備忘等を書き入れたのである。このようにして完成したトゥルヌー本は従来の自家用本と見た目は酷似するが、実際には全く性質の異なる装本であると言っても過言ではあるまい。

最後に、我々の仮説を裏打ちするマテリアルな観点からの傍証をもう一点くわえておこう。トゥルヌー本には初版刊本にあるはずのいくつかの要素が欠けている。まず、国立図書館本にある19番目および20番目の折丁（277-298頁）がトゥルヌー本にはない。初版刊本における19番目の折丁全体（277-292頁）が「補遺 Appendice」にあてられており、「第１巻70頁の注釈」を含む。この注釈は1817年４月の『ジェントルメン・マガジン *Gentlemen Magasine*』[23] の記事の抜粋である。当然のことながら、19番目の折丁は1817年の４月以降に組版されたと言えよう。もし我々の仮説に違わず、トゥルヌー本が校正段階にあるシートを製本したものであるのなら、かなり遅れて ── おそらく公刊直前に ── 組版されたと想定される初版刊本19番目の折丁がトゥルヌー本に欠落しているのも不思議ではない。また、初版刊本の20番目の折丁（293-298頁）は、第１巻の目次を含む。この目次は19番目の折丁の内容にも対応しており、同じく公刊直前に作成されたはずである。トゥルヌー本のほうは、この20番目の折丁も欠いているのである。

だが、さらに重要な特徴として、初版刊本にある「第１巻正誤表 Errata du premier volume」が、トゥルヌー本には欠けているという相違が挙げられる。国立図書館本では、本文が始まる前、巻頭の標題と献辞に挟まれる形で、誤植や表記の誤りを訂正する正誤表が綴じ込まれている。他方、トゥルヌー本には正誤表が付されていない。表題の次には献辞が綴じられ、ただちに本文に入る。

以上の事実に窺い知れるのは、トゥルヌー本が『絵画史』校了以前に装丁されていた蓋然性であろう。当然ではあるが、目次と正誤表は通常、本文校了後に作成される。なぜなら、校正の過程で頁組が変わりうるため目次は最後に組まねばならず、校了後に発見された軽微な誤植は正誤表で訂正するからだ。

だが、正誤表に関しては、さらに興味深い事実がある。トゥルヌー本には、正誤表を表す « Errata » という語が余白に記されたページが散見し、そうしたページの訂正のなかには、国立図書館本の正誤表に記載されたものが存在す

るのである。それはトゥルヌー本lx頁の本文、« nos jours être un despotisme » の « être » に削除斜線が引かれた部分である（転写17番）。この場合、訂正後の文章は « nos jours un despotisme » になるが、国立図書館本の正誤表には、これに該当する訂正がある ──「lx頁、15行目、de nos jours être un、de nos jours un と読むこと」[24]。トゥルヌー本の紙葉上で、正誤表に組み込むべきものとして著者が記した誤植と訂正とが、実際に初版の正誤表に記載されているのである。この事実もまた、トゥルヌー本が校正刷りを製本したものであるとする我々の仮説の裏づけとなるのではあるまいか。

結　語

我々の仮説では、トゥルヌー本とは著者校正刷りを綴じて、自家用に誂えた装本である。ではなぜ、スタンダールはわざわざ校正刷りを自家用本として手元に残したのか。この問いについて、現時点において確証のある論を展開することはできない。しかし『絵画史』初版をとりまく政治的状況に着目すれば、トゥルヌー本の特異な用途がおのずと理解されるであろう。

友人アドルフ・ド・マレストに宛てた1818年11月20日付の書簡において、スタンダールは『絵画史』の改訂版を念頭におき、次のように述べている ──「私はディドに手紙を書いて、〔…〕1817年に臆病風〔…〕に吹かれて〔ディドに〕要求された20もの差し替え刷りを削除してもらうようにします。」[25]。『絵画史』において、スタンダールの政治的主張が美術史の概説に巧妙に隠されている点については専門家も認めるところである[26]。王権と教会への批判に満ちた『絵画史』を、王政復古期の厳しい検閲下で公刊するのは多大な危険が伴ったのは言うまでもない。出版社であるディド書店は、何とか著者の政治的毒舌を和らげようと努力したことであろう。その結果が検閲の目を欺くための差し替え刷りだったと作家は前掲のマレスト宛書簡で告白しているのである。

では、差し替え刷りによる自己検閲のありようを検討するために、再び初

版刊本とトゥルヌー本とを照合しよう。次に引用するのは、国立図書館本の第１巻、「序文」原註（p. lxxxvj）に登場する一文である ──

> こうした方々の攻撃の爪から逃れるために次のように言うのは、駄弁を弄することだ。これに続くくだりは、1811年と1813年に、とある形而上学的な主題に関して、読者におもねらない筆致で書かれただとか、あるいは、1817年に勃発するはずだった諸々の事件について1811年に仄めかされていたことを余す所なく知らせるために30もの差し替え刷りがされたなどと[27]。

この註が付された本文では、君主制が芸術の発展を妨げたとするピエモンテの例がとりあげられ、「王政の例としてピエモンテに出くわしたのは喜ばしかった。〔…〕この例が今日見つかる唯一のものであるのなら、誰しもが我々の栄光ある革命に感謝するだろう」[28] と、王政が暗に皮肉られている。したがって、註の目的は、スタンダールによる自己弁護だと考えられよう。トゥルヌー本にはこの註そのものがなく、手書きの草案もない。すなわち、差し替え刷りによって初版刊本に追加されたテクストなのである。

興味深いことに、『絵画史』初版公刊の８年後、スタンダールは『絵画史』再版（1825年版）において、この註を削除し、新たな文言に替えている。「編集者の用心深さからここに挿入されていた長い注釈を、私は削除する」[29]。1817年当時、作家が望まぬ差し替え刷りを強いられた事実は間違いないであろう。

本心では煙幕的な手段に納得のいかないスタンダールは、自身の「理解者」に対し説明と弁解を試みている。『絵画史』初版本の一冊である「ブルーノ・パンシェルル本 L'exemplaire Bruno Pincherle」[30] は、アイルランドの詩人トマス・ムーアへの献呈用と推定されており、著者の直筆を数点とどめる書冊である。作家は献呈の際、自分の望まぬ差し替え刷り部分に釈明を書き添えている。たとえば、第１巻には２カ所に「1817年の官憲のために」（p. L[31]; p. LXXXVI[32]）、第２巻の244頁には「1817年の官憲のために差し替え刷りと

注釈」[33] と記されている。1817年の政治情勢は『絵画史』に検閲の目をかいくぐるための差し替え刷りを強いたが、スタンダールは心の底から諾了はできず、少数の「理解者」には釈明を書き入れた刊本を献呈したのである。

このように献呈本に注記する際、スタンダールが参照したのがトゥルヌー本だったのではないか。ディド書店の要求による差し替え刷り部分を献呈相手に示すためには、差し替え刷り前の原初のテクストと、自らが誤植訂正のために要求した差し替え刷りの備忘とを共に備えたトゥルヌー本は、当然ながら不可欠だったはずだ。官憲の目眩し目的で施したと作家が打ち明けた、差し替え刷りによる修正は、トゥルヌー本にはまったくない。要するに、純粋な誤植の訂正のための差し替え刷りを、1817年の検閲に備えた差し替え刷りと区別するために、スタンダールは誤植の訂正と本文の修正とが――換言するならば作家自身が真に必要とした修正のみが――直接書き込まれた校正刷りを手元に残す必要を覚えたのではなかったか。そうであるのならば、我々がトゥルヌー本とは『絵画史』公刊当時の献本戦略を立てるうえで準拠するための自家用本であると位置づけたとしても、あながち間違いとはいえまい。

註

1）M. B. A. A.［Stendhal］, *Histoire de la peinture en Italie*［l'exemplaire Tourneux］. Tome unique comportant des corrections de Stendhal et un assez grand nombre de notes manuscrites. Paris : P. Didot l'ainé, 1817,［Cote : 502107R］, lxxxvj-276, 397 pp.（頁数表記は原典を踏襲する。以下、同様。）

2）トゥルヌーの経歴については次を参照――Voir Paul Lacombe, « Maurice Tourneux », *Bulletin du bibliophile et du bibliothécaire*, n^{os} 1-2, 15 janvier-15 février, 1918, pp. 218-238.

3）Maurice Tourneux, « Un service de presse en 1817 », *L'Intermédiaire des chercheurs et curieux*, 10 décembre 1885, pp. 735-736.

4）Voir Paul Arbelet, « Avant-propos », in Stendhal, *Histoire de la peinture en Italie*（2 tomes）. Texte établi et annoté avec préface et avant-propos par Paul Arbelet, in Stendhal, *Œuvres complètes de Stendhal*, publiées sous la direction d'Édouard

Champion, Paris : Libr. Honoré Champion, 33 vol., 1913-1940, t. XI, [1924], p. CXXXVIII.

5）デル・リットは1981年、『日記』の校訂に際し、トゥルヌー本の見返しに書き込まれた備忘を1817年の項目に収めている（voir Stendhal, *Journal*, in *Œuvres intimes*. Édition établie par V. Del Litto, Paris : Gallimard, coll. « Bibliothèque de la Pléiade », 2 vol., 1981-82, t. I, [1981], p. 971）。しかしその注釈で彼はトゥルヌー本を『絵画史』の「散逸した」自家用本として紹介し（*ibid.*, pp. 1594-1595）、備忘録の転写はダニエル・ミューラーの論文（Daniel Muller, « À propos d'une note inédite de Stendhal », *Le Divan*, n° 147, mars 1929, p. 122）に依っている。なお、ミューラーの同論文はトゥルヌー本見返しに書き込まれた備忘の転写のみに留まっており、同本に書き込まれた訂正やその成立経緯に踏み込んだものではない。

6）Voir Jean-Louis Ouvrard, « L'exemplaire « Tourneux » de l'*Histoire de la peinture en Italie* de Stendhal », *L'Année stendhalienne*, n° 16, 2017, p. 384.

7）Paul Arbelet, « Avant-propos », in Stendhal, *Histoire de la peinture en Italie* (2 tomes). Texte établi et annoté avec préface et avant-propos par P. Arbelet. Postface et notes par Victor Del Litto, in *Œuvres complètes*. Nouvelle édition établie sous la direction de V. Del Litto et Ernest Abravanel, Genève : Cercle du Bibliophile, 50 vol., 1967-1974, t. XXVI, [1969], p. CXIV.

8）アルブレはトゥルヌー本を実見した数少ない研究者の一人である。彼はその貴重な機会をえた理由について次のように説明している ── 「差し替え刷りがされる前の、多くの手書きの修正を含んだ『絵画史』の一巻は、この書物の原初のテクストと数々の最重要の情報とを私にもたらしてくれた。トゥルヌー氏、そして彼が亡くなった後は氏の奥様に、長期にわたってこれを研究するのを許していただいたことを深く感謝している。」（*ibid.*, p. CXXXVIII）。現在、同本はナント市立図書館に収められている［Cote : 502107R］。

9）ドゥーセ本に関するアルブレの説明によれば、同本にはスタンダールの手による訂正が書き込まれている（*ibid.*, p. CXXXIX）。公刊から１年以上後の日付と共にいくつかの注記がされており、我々はこれを典型的な手沢本であると考える。例えば、第１巻の末尾にはこう書いてある ──「非常に良い、非常によく書けているように思われる、1819年４月11日。」（voir Stendhal, *Littérature* (*Mélanges V*). Texte annoté et préfacé par Victor Del Litto ; frontispice original de Mette Ivers ; iconographie réunie par Roger Jean Ségalat, in *Œuvres complètes*, *op. cit.*, t. XLIX, [1972], p. 120.）

10）M. B. A. A. [Stendhal], *Histoire de la peinture en Italie* [l'exemplaire de la Bibliothèque Nationale]. Paris : P. Didot l'ainé, 2 vol., 1817, t. I, [Cote : IFN-8626845], lxxxvj-298, 452 pp.

11）アルブレによれば、見つかっている『絵画史』第１巻刊本の大半には「dédicace 献辞」がない（voir Arbelet, « Notes et éclaircissements », in Stendhal, *Histoire de la peinture en Italie*, in *Œuvres complètes*, *op. cit.*, t. XXVI, p. 380）。彼が唯一「献辞」のページを発見できたのは、国立図書館本とトゥルヌー本のみだという。この点において国立図書館本は最も流布している『絵画史』の初版本と内容構成が異なることになり、『絵画史』の異本とも呼べよう。トゥルヌー本に献辞が入っているという点において、国立図書館本が比較対象としてふさわしいと我々は判断した。『絵画史』異本に関しては別の機会に論じる。

12）本来の頁数表記は「xvi 頁」となるが、ここではディド書店の表記法を踏襲する。以下、同様に表記。

13）M. B. A. A.［Stendhal］, *Histoire de la peinture en Italie*［l'exemplaire Tourneux］, *op. cit.*, pp. 182-183.

14）M. B. A. A.［Stendhal］, *Histoire de la peinture en Italie*［l'exemplaire de la Bibliothèque Nationale］, *op. cit.*, pp. 182-183.

15）19世紀ラルース百科事典における「校正者」の記述によれば、校正の順序はおおむね次の通りである ── まず手書きの原稿が植字工に渡される。次に植字工が組版する。印刷工はそれを校正刷りとして刷りだし、校正係がその第１校正刷りを確認する。第２校正刷りは、校正係に渡される前に著者に送られ、著者はその上に必要と思われる訂正を指示する。第２校正刷りは通常、著者の最終校正を意味する。つまり当時、著者による校正は大抵の場合、一度きりだったのである。Voir Pierre Larousse, Entrée « correcteur », in *Grand dictionnaire universel : français, historique, géographique, biographique, mythologique, bibliographique, littéraire, artistique, scientifique, etc.*, Paris : Administration du Grand dictionnaire universel, 17 vol., 1865-1890, t. V, p. 182.

16）Voir Stendhal, *Correspondance*. Édition établie et annotée par Henri Martineau et Victor Del Litto, Paris : Gallimard, coll. « Bibliothèque de la Pléiade », 3 vol., 1967-1968, t. I, ［1968］, p. 861.

17）カルロ・コルディエはミラノ本について校正刷りを製本したものと見做しているが、同本の構成や書き込みの性質、マテリアルな側面を考察するならば、コルディエの仮説は再検討を要しよう。これについては別の機会に詳述する。Voir Carlo Cordié, « Un'ignota edizione originale dell' "*Histoire de la peinture en Italie*" postillato da Stendhal e da suoi amici », *Annali della Scuola Normale superiore di Pisa. Lettre, Storia e Filosofia,* serie II, vol. 20, n^{os} 3-4, 1951, pp. 206-238.

18）カルロ・コルディエが当該刊本の存在を報告したのは1951年、アルブレが『絵画史』校訂版を出版したのは1924年である。

19）アンリ・マルチノおよびデル・リットによれば、当該書簡の初出は次の論文である ── Paul Arbelet, « Stendhal et son éditeur d'après une lettre inédite [5 mars 1817] », *Bulletin des Bibliophiles*, août-sept. 1937, pp. 342-351（voir Martineau et Del Litto, « Notes », in Stendhal, *Correspondance*, *op. cit.*, t. I, p. 1392）。

20）ミラノ本の書き込みについての具体的な検討はべつの機会にゆずる。

21）引用は直訳であるが、この文言を敷衍するならば、印刷に間に合わなかった原稿の一部（聖人の名前）を埋めるための指示である。

22）1817年８月２日付の『ジュルナル・ド・ラ・リブレリ *Journal de la librairie*』が『イタリア絵画史』の公刊を告げる（voir Arbelet, « Avant-propos », in Stendhal, *Histoire de la peinture en Italie*, *op. cit.*, t. XXVI, p. CX）。

23）本文ではスタンダールの表記を踏襲したが、実際の雑誌名は『ザ・ジェントルマンズ・マガジン *The Gentleman's Magazine*』である。Voir [n.s.], « A Copy and Translation of the Bull against Bible Societies, issued from Rome June 29, 1816, by Pope Pius VII, to the Archbishop of Gnezn, Primate of Poland », *The Gentleman's Magazine*, from January to June 1817, LXXXVII vol., pp. 365-367.

24）M. B. A. A. [Stendhal], *Histoire de la peinture en Italie* [l'exemplaire de la Bibliothèque Nationale], *op. cit.*, [n. p. : « Errata du premier volume »].

25）Stendhal, *Correspondance*, *op. cit.*, t. I, p. 950.

26）Voir Yves Ansel, « L'*Histoire de la peinture en Italie*, « pamphlet de Dominique » », *L'Année stendhalienne*, n° 6, 2007, pp. 69-99.

27）M. B. A. A. [Stendhal], *Histoire de la peinture en Italie* [l'exemplaire de la Bibliothèque Nationale], *op. cit.*, p. lxxxvj.

28）*Ibid.*, pp. lxxxv-lxxxvj.

29）M. de Stendhal [Stendhal], *Histoire de la peinture en Italie*. Seconde édition（2 tomes）. Paris : Sautelet et Cie, t. I, 1825, p. lxxxvj.

30）この刊本を発見し、調査した研究者ブルーノ・パンシェルルの名前を冠する。当該刊本に残るスタンダールの手書き注釈は、彼の論文において転写されている。Voir Bruno Pincherle, « Sur un nouvel exemplaire annoté de l'*Histoire de la Peinture en Italie* », *Stendhal Club*, n° 3, 15 avril 1959, pp. 185-200. 同論文においてパンシェルルは、この刊本の書き込みが備忘録用途ではなくトマス・ムーアへの献呈用になされた蓋然性を論証している。

31）*Ibid.*, p. 188.

32）*Idem*.

33）*Ibid.*, p. 189.

付録・書き込みの転写

1. 〔見返しに挟まれた小紙片（２枚）の１枚目〕

—Tome 1er—
Ce volume — a été
trouvé seul sur les
quais par
M. M[auri]ce Tourneux
en 189 ? [1885]

il en donne relation
dans
l' *Intermédiaire des*
Chercheurs et des Curieux

Je crois :
Le bouquiniste des quais
n'en avait pas [un mot illisible]
soupçonné la curiosité

2. 〔見返しに挟まれた小紙片（２枚）の２枚目〕

Ce tome unique
qui contient les corrections
de Stendhal et un
assez grand nombre
de notes = services
de presse etc

3. p. xvj.
本　文の原註：« costruccio » の一番目の « o » に削除斜線
当該箇所の余白：« / a »
訂正前：...costruccio castracani...
訂正後：...castruccio castracani...
初　版：...Castruccio Castracani...〔差し替え刷りによる修正〕

4. p. xix.
ページ上部の余白：« Carton »
本　文：« nous » に削除線
当該箇所の余白：« vous / »
訂正前：Les vices d'Alexandre VI nous jetteroient hors du trône...
訂正後：Les vices d'Alexandre VI vous jetteroient hors du trône...
初　版：Les vices d'Alexandre VI vous jetteroient hors du trône...〔差し替え刷りによる修正〕

5. p. xxj.
本　文：« atroces (I). » の « . » に削除斜線
当該箇所の余白：« ? / »
訂正前：...commettre des crimes à-peu-près aussi atroces (I).
訂正後：...commettre des crimes à-peu-près aussi atroces (I) ?
初　版：...commettre des crimes à-peu-près aussi atroces (I).〔修正なし〕

6. p. xxiv.
本　文：« Psyché et l'Amour (I). »
当該箇所の余白：« ...lique » ; « ...ché et l'amour »〔ページの裁断のため前半部が判読不能。元の訂正文は « Italique », « Psyché et l'amour » であったと予測される。〕
訂正前：...dans l'attitude du joli groupe de Psyché et l'Amour (I).
訂正後：...dans l'attitude du joli groupe de *Psyché et l'amour* (I).

初　版：...dans l'attitude du joli groupe de Psyché et l'Amour（I）.〔修正なし〕

7. p. xxvij-xxviij.

ページ上部の余白：« Carton »〔一部裁断〕

本　文：« Peyssins Corrège » に削除線

当該箇所の余白：« La nécessité / »

訂正前：Peyssins Corrège leur fit inventer un langage.

訂正後：La nécessité leur fit inventer un langage.

初　版：La nécessité leur fit inventer un langage.〔差し替え刷りによる修正〕

8. p. xxxiij.

本　文：« en prison, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« δ »〔deleatur（削除記号）〕

訂正前：...beaux jours en prison, à Frolence...

訂正後：...beaux jours en prison à Frolence...

初　版：...beaux jours en prison, à Frolence...〔修正なし〕

本　文：« noblesse, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« δ »〔deleatur / 削除記号〕

訂正前：...il se mêla parmi la noblesse, qui, comme on pense,...

訂正後：...il se mêla parmi la noblesse qui, comme on pense,...

初　版：...il se mêla parmi la noblesse, qui, comme on pense,...〔修正なし〕

9. p. xxxiv.〔訂正方法について検討した痕跡があり、ここでは最初の訂正と最終的な訂正を示す〕

ページ上部の余白：« Carton »

本　文：« ce sont les François de l'Italie » に削除線と文頭と文末のそれぞれに挿入記号

〔最初の訂正〕

当該箇所の余白：« (» ; «) »〔記号に削除斜線〕

訂正前：L'amabilité et la folle gaieté de la jeune Vénitienne, ce sont les François de l'Italie, captivoient le prince tous les jours davantage.

訂正後：L'amabilité et la folle gaieté de la jeune Vénitienne (ce sont les François de l'Italie) captivoient le prince tous les jours davantage.

初　版：L'amabilité et la folle gaieté de la jeune Vénitienne, ce sont les François de l'Italie, captivoient le prince tous les jours davantage.〔修正なし〕

〔最終的な訂正〕

ページ下部の余白：« note après les parenthèses »〔« après les parenthèses » には削除斜線、一部裁断〕; « I. Les Vénitiens sont les Français de l'Italie. »

訂正前：L'amabilité et la folle gaieté de la jeune Vénitienne, ce sont les François de l'Italie, captivoient le prince tous les jours davantage.

訂正後：L'amabilité et la folle gaieté de la jeune Vénitienne（I）captivoient le prince tous les jours davantage.〔当該箇所の原註に « I. Les Vénitiens sont les François de l'Italie. » とあり〕

初　版：L'amabilité et la folle gaieté de la jeune Vénitienne, ce sont les François de l'Italie, captivoient le prince tous les jours davantage.〔修正なし〕

10. p. xlj.

本文：« tous, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« /. »

訂正前：...un seul homme eût pu les connoître tous, si on le fait...

訂正後：...un seul homme eût pu les connoître tous. Si on le fait...

初　版：...un seul homme eût pu les connoître tous, si on le fait ...〔修正なし〕

11. p. xlij.

本　文：« 1477. » の « . » に削除斜線 ; « Il » の « I » に削除斜線

当該箇所の余白：« , / i »

訂正前：...c'est-à-dire en 1477. Il auroit pu passer...
訂正後：...c'est-à-dire en 1477, il auroit pu passer...
初　版：...c'est-à-dire en 1477. Il auroit pu passer...〔修正なし〕

12. p. xlix.〔インクで書き込まれた他の訂正文とは異なり、当該箇所は鉛筆の線を確認できる〕
本文の原註：« Ancien Musée Napoléon. » に削除線〔鉛筆・インク〕
当該箇所の余白：« Musée de Paris n° »〔鉛筆〕
訂正前：Ancien Musée Napoléon.
訂正後：Musée de Paris, n°
初　版：Musée de Paris, n° 928.〔差し替え刷りによる修正〕

13. p. l.
ページ上部の余白：« Carton »〔鉛筆、一部裁断〕
本文：« A la fin quinzième siècle » の « fin » の後に挿入記号
当該箇所の余白：« / du »
訂正前：A la fin quinzième siècle...
訂正後：A la fin du quinzième siècle...
初　版：A la fin du quinzième siècle...〔差し替え刷りによる修正〕

14. p. liv.
本文：« a vu, » の « , » に削除斜線 ; « Côme un Washington, » の « Côme » の後に挿入記号
当該箇所の余白：« virgule / »〔一部裁断〕・« / δ »
訂正前：...a vu, dans Côme un Washington,...
訂正後：...a vu dans Côme, un Washington,...
初　版：...a vu, dans Côme un Washington,...〔修正なし〕

15. p. lv.
本　文：« courtisans, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« *δ* / »

訂正前：...des plats courtisans, qu'il auroit dû...

訂正後：...des plats courtisans qu'il auroit dû...

初　版：...des plats courtisans, qu'il auroit dû...〔修正なし〕

16. p. lvj.

本　文：« Toscane » の後に « , »

当該箇所の余白：« / , »

訂正前：...sur la Toscane et sur le reste de l'Italie,...

訂正後：...sur la Toscane, et sur le reste de l'Italie,...

初　版：...sur la Toscane et sur le reste de l'Italie,...〔修正なし〕

17. p. lx.

ページ上部の余白：« à l'errata »〔インク〕に重ねて « Carton »〔鉛筆、一部裁断〕

本　文：« nos jours être un despotisme » の « être » に削除斜線〔鉛筆〕

当該箇所の余白：« être »〔削除斜線〕

訂正前：...que nous voyons de nos jours être un despotisme...

訂正後：...que nous voyons de nos jours un despotisme...

初　版：...que nous voyons de nos jours être un despotisme...〔修正なし〕

正誤表：« de nos jours être un, lisez *de nos jours un.* »〔正誤表では修正後の語句をイタリック体で表記する〕

18. p. lxj.

本文の原註：« Nioolas V » の一番目の « o » に削除斜線

当該箇所の余白：« c / »

訂正前：...Nioolas V...

訂正後：...Nicolas V...

初　版：...Nioolas V...〔修正なし〕

正誤表：« ...Nioolas, lisez *Nicolas.* »

19. p. lxiij.

本　文：« je ne me rappelle pas dans le moment » の « pas » に削除線

当該箇所の余白：« δ / »

訂正前：...je ne me rappelle pas dans le moment...

訂正後：...je ne me rappelle dans le moment...

初　版：...je ne me rappelle pas dans le moment...〔修正なし〕

正誤表：« je ne me rappelle pas, lisez *je ne me rappelle dans.* »

20. p. lxiij.

本　文：« un château fort » の « château » の後に挿入記号

当該箇所の余白：« - / »

訂正前：...un château fort près de Forli（I）.

訂正後：...un château-fort près de Forli（I）.

初　版：...un château fort près de Forli（I）.〔修正なし〕

21. p. lxxvj.

本　文：« ses » の « s » に削除斜線〔鉛筆〕

当該箇所の余白：« / c »〔鉛筆〕

訂正前：Si en passant sous ses portes le voyageur lève les yeux,...

訂正後：Si en passant sous ces portes le voyageur lève les yeux,...

初　版：Si en passant sous ses portes le voyageur lève les yeux,...〔修正なし〕

22. p. lxxxiij.

本文の原註：« Briano » の « o » に削除線〔鉛筆〕

当該箇所の余白：« d »〔鉛筆〕

訂正前：...édit. Briano,...

訂正後：...édit. Briand,...

初　版：...édit. Briano,...〔修正なし〕

23. p. 12.
本　文：« Pierre, » の « , » に削除斜線
当該箇所の余白：« δ / »
訂正前：...saint Pierre, martyre, à Saint-Eustorge...
訂正後：...saint Pierre martyre, à Saint-Eustorge...
初　版：...saint Pierre, martyre, à Saint-Eustorge...〔修正なし〕

24. p. 21.
本文の原註：« nous nous contentons » に削除線
当該箇所の余白：« on se contente / »
訂正前：...nous nous contentons de porter des têtes...
訂正後：...on se contente de porter des têtes...
初　版：...nous nous contentons de porter des têtes...〔修正なし〕

25. p. 22.
本　文：« Mais les premières gens »
当該箇所の余白：« B. / premières »〔Bon / 変更なし、一部裁断〕
訂正前：...Mais les premières gens...
訂正後：...Mais les premières gens...
初　版：...Mais les premières gens...
正誤表：« premières, lisez *premiers*. »

26. p. 25.
本　文：« les magistrats ils eurent l'idée » の « magistrats » の後に挿入記号
当該箇所の余白：« , / »
訂正前：...les magistrats ils eurent l'idée...
訂正後：...les magistrats, ils eurent l'idée...
初　版：...les magistrats ils eurent l'idée...〔修正なし〕

27. p. 37.

本文：« Polentani » の « a » に削除斜線

当該箇所の余白：« i / »

訂正前：Les Polentani de Ravenne...

訂正後：Les Polentini de Ravenne...

初　版：Les Polentani de Ravenne...〔修正なし〕

正誤表：« Polentani, lisez *Polentini.* »

28. p. 60.

ページ上部の余白：« Carton »〔一部裁断〕；« Michel-Ange le Carravage est un seul nom »

本　文：« *Michel-Ange, le Carravage* » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« δ / »

訂正前：...*Michel-Ange, le Carravage*...

訂正後：...*Michel-Ange le Carravage*...

初　版：...*Michel-Ange de Carravage*...〔差し替え刷りによる修正〕

29. p. 60.

本　文：« pour défendre leurs têtes. » の « . » に削除斜線

当該箇所の余白：« ! / »

訂正前：Quels plats politiques pour défendre leurs têtes.

訂正後：Quels plats politiques pour défendre leurs têtes !

初　版：Quels plats politiques pour défendre leur constitution, c'est-à-dire leurs têtes !〔差し替え刷りによる修正〕

30. p. 61.

ページ上部の余白：« ôter la virgule à la main. »〔一部裁断〕

本　文：« quand on est las d'un de ces mots, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« δ / »

訂正前：...quand on est las d'un de ces mots, pour un objet,...

訂正後：...quand on est las d'un de ces mots pour un objet,...

初　版：...quand on est las d'un de ces mots, pour un objet,...〔修正なし〕

31. p. 67.

ページ上部の余白：« ôter à la main la virgule et la pousser entre Lombardie et Starnina. »〔一部裁断〕

本　文：« Lombardie » の後に挿入記号・« Starnina, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« / , » ・« δ / »

訂正前：...qui peignit en Lombardie Strarnina, et dello Fiorentino...

訂正後：...qui peignit en Lombardie, Strarnina et dello Fiorentino...

初　版：...qui peignit en Lombardie Strarnina, et dello Fiorentino...〔修正なし〕

32. p. 100.

本　文：« il faut qu'il fasse les ombres plus sombres » の後に挿入記号

当該箇所の余白：« / ; »

訂正前：...il faut qu'il fasse les ombres plus sombres pour rendre les couleurs ...

訂正後：...il faut qu'il fasse les ombres plus sombres ; pour rendre les couleurs ...

初　版：...il faut qu'il fasse les ombres plus sombres pour rendre les couleurs ...〔修正なし〕

33. pp. 103-104.

本文の原註：« il n'avoit pas été restauré » の « pas » に削除斜線

当該箇所の余白：« / δ pas »

訂正前：...si malheureusement il n'avoit pas été restauré...

訂正後：...si malheureusement il n'avoit été restauré...

初　版：...si malheureusement il n'avoit pas été restauré...〔修正なし〕

34. p. 114.

本文の原註：« Fedrici » の « d » と « r » の間に斜線

当該箇所の余白：« / e »

訂正前：...le père Fedrici...

訂正後：...le père Federici...

初　版：...le père Fedrici...〔修正なし〕

35. p. 116.

本文の原註：« jugements, » の « , » に削除斜線 ; « téméraires » の後に挿入記号 ; « vérité, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« / δ »

訂正前：...des nigauds porteurs de jugements, téméraires à la vérité, sur...

訂正後：...des nigauds porteurs de jugements téméraires, à la vérité sur...

初　版：...des nigauds porteurs de jugements, téméraires à la vérité, sur...〔修正なし〕

36. p. 121.

本　文：« Gèvre »

当該箇所の余白：« Grève / »

訂正前：...la ligne du quai de Gèvre qui va se perdre...

訂正後：...la ligne du quai de Grève qui va se perdre...

初　版：...la ligne du quai de Gèvre qui va se perdre...〔修正なし〕

37. p. 129.

本文：« la Sextine » の最初の « e » に削除斜線

当該箇所の余白：« i / »

訂正前：...son invention à la Sextine...

訂正後：...son invention à la Sixtine...

初　版：...son invention à la Sextine...〔修正なし〕

正誤表：« Sextine, lisez *Sixtine*. »

38. p. 131.
本文の原註：« Scimia » の « c » に削除斜線
当該箇所の余白：« / δ »
訂正前：...Scimia della natura...
訂正後：...Simia della natura...
初　版：...Scimia della natura...〔修正なし〕

39. p. 135.
本文の原註：« Cric » の２番目の « c » に削除斜線
当該箇所の余白：« / e »
訂正前：...par Thomas M. Cric...
訂正後：...par Thomas M. Crie...
初　版：...par Thomas M. Cric...〔修正なし〕

40. p. 146.
本文：« mansionry » の最初の « n » と « i » に削除斜線
当該箇所の余白：« masonry »〔一部裁断〕; « / δ » ; « / δ »
訂正前：...mansionry...
訂正後：...masonry...
初　版：...mansionry...〔修正なし〕

41. p. 146.
本　文：« wooingly » の « o » と « o » に削除斜線
当該箇所の余白：« wingly » ; « / δ » ; « / δ »
訂正前：...wooingly...
訂正後：...wingly...
初　版：...wooingly...〔修正なし〕

42. p. 146.
本　文：« l'interpelle. » の « . » に削除斜線

当該箇所の余白：« , / »

訂正前：...selon qu'Harpagon l'interpelle.

訂正後：...selon qu'Harpagon l'interpelle,

初　版：...selon qu'Harpagon l'interpelle,〔指示のとおり修正、差し替え刷りなし〕

43. p. 147.

本　文：« armes » の « r » と « s » に削除斜線

当該箇所の余白：« δ / δ » ; « ame »

訂正前：...des ouvriers sans armes triomphent...

訂正後：...des ouvriers sans ame triomphent...

初　版：...des ouvriers sans ame triomphent...〔差し替え刷りによる修正〕

正誤表：« sans armes, lisez *sans âmes.* »

44. p. 151.

本　文：« alla Seggiola » に下線

当該箇所の余白：« Italique / »〔一部裁断〕

訂正前：...la madonne alla Seggiola...

訂正後：...la madonne *alla Seggiola*...

初　版：...la madonne alla Seggiola...〔修正なし〕

45. p. 154.

本　文：« Werter » の « t » の後に挿入記号

当該箇所の余白：« / h »

訂正前：Werter auroit dit...

訂正後：Werther auroit dit...

初　版：Werther auroit dit...〔差し替え刷りによる修正〕

46. p. 160.

本文原註：« Bronzino, mort en 1567. » の前に波線および挿入記号；« Allori »

の前に点線および挿入記号

当該箇所の余白：« Vérifier les dates des naissances des deux derniers articles dans le Dictionnaire envoyé par M. Crozet. De plus changer les dates envoyées postérieurement à l'impression de cette feuille. »

初　版：〔修正なし〕

正誤表：« C'est par erreur qu'on a groupé ces dates qui devaient être en colonne. »

47. p. 166.

本　文：« Florence, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« ; / »

訂正前：...qu'il passa dans Florence, le temps qu'il vécut à Milan...

訂正後：...qu'il passa dans Florence ; le temps qu'il vécut à Milan...

初　版：...qu'il passa dans Florence, le temps qu'il vécut à Milan...〔修正なし〕

48. p. 167.

本文：« Phorcus..., que » の « ..., » に削除線

当該箇所の余白：« δ / »

訂正前：...la fille de Phorcus..., que...

訂正後：...la fille de Phorcus que...

初　版：...la fille de Phorcus..., que...〔修正なし〕

正誤表：« Phorens.... que, lisez *Phorcus que*. »

49. p. 170.

ページ上部の余白：« Carton »

本　文：« prouver » の « ouver » に削除線

当該箇所の余白：« premier » ; « / emier »

訂正前：Pour le prouver, l'enfant…

訂正後：Pour le premier, l'enfant...

初　版：Pour le premier, l'enfant...〔差し替え刷りによる修正〕

50. p. 176.

本文原註下の余白への書き込み：« on les dit à Paris en 1817. »

当該原註：« Et ramenés par Waterloo à leur premier séjour. Ils avoient été donnés à l'Ambrosienne par Galeazzo Arconato. Charles I[er], roi d'Angleterre, fit offrir jusqu'à mille doubles d'Espagne（60,000 fr.）du plus grand de ces volumes. »

初　版：反映なし

51. p. 181.

本　文：« Jésus, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« / ; »

訂正前：...cette action de Jésus, déchiré par…

訂正後：...cette action de Jésus ; déchiré par…

初　版：...cette action de Jésus ; déchiré par…〔差し替え刷りによる修正〕

52. p. 181.

本　文：« pareils » に削除斜線

当該箇所の余白：« ou tels »〔クロゼによる修正についての問いかけ〕

訂正前：...avec de pareils ingrats.

訂正後：...avec de tels ingrats.

初　版：...avec de pareils ingrats.〔修正なし〕

53. p. 182.

本　文：« l'un de vous va me trahir » に下線

当該箇所の余白：« Italique »

訂正前：...l'un de vous va me trahir...

訂正後：...*l'un de vous va me trahir*...

初　版：...*l'un de vous va me trahir*...〔差し替え刷りによる修正〕

54. pp. 182-183.

ページ上部の余白：« Carton pour remplir les noms envoyés trop tard »〔一部裁断〕

本　文：Saint Jean est accablé, saint.....Judas fixe les yeux pour tâcher de découvrir si c'est lui qui est soupçonné ; il fronce déja［*sic*］le sourcil, et se prépare à nier les soupçons qui pourroient être dirigés sur lui, tandis que saint..... exprime son étonnement, son indignation et son horreur, passant le bras gauche par-derrière les épaules de saint...., avertit saint.... que le traître est Judas. Saint...., qui est déja［*sic*］instruit, regarde celui-ci avec horreur. Saint...., qui est au bout la table, à la gauche du spectateur, ne peut croire cette horrible nouvelle ;

初　版：Saint Jean, accablé de ce qu'il vient d'entendre, prête cependant quelque attention à saint Pierre, qui lui explique vivement les soupçons qu'il a conçus sur un des apôtres assis à la droite du spectateur.

Judas, à demi tourné en arrière, cherche à voir saint Pierre et à découvrir de qui il parle avec tant de feu, et cependant il assure sa physionomie, et se prépare à nier ferme tous les soupçons. Mais il est déja［*sic*］découvert. Saint Jacques-le-Mineur passant le bras gauche par-dessus l'épaule de saint André, avertit saint Pierre que le traître est à ses côtés. Saint André regarde Judas avec horreur. Saint Barthelemy, qui est au bout de la table, à la gauche du spectateur s'est levé pour mieux voir le traître.〔差し替え刷りによる修正〕

55. p. 183.

本　文：Saint.... se lève, et, élevant les doigts de la main...., semble dire au Sauveur :

初　版：Saint Thomas quitte sa place, s'approche vivement de Jésus, et élevant un doigt de la main droite, semble dire au Sauveur :〔差し替え刷りによる修正〕

56. p. 184.

ページ上部の余白：« Carton pour remplir les noms »〔一部裁断〕

本　文：Saint.... est accablé par la douleur ; saint.... répète l'annonce terrible à saint.... qui refuse d'y ajouter foi, qui est au bout de la table, à la droite du spectateur ;

初　版：Saint Matthieu répète les paroles terribles à saint Simon, qui refuse d'y croire.〔差し替え刷りによる修正〕

57. p. 185.

本　文：« Naw » の « a » に削除斜線

当該箇所の余白：« / o »

訂正前：...Naw fades the glimmering...

訂正後：...Now fades the glimmering...

初　版：...Naw fades the glimmering...〔修正なし〕

58. p. 186.

本文の原註：« *petitesse,* » の « , » に削除斜線・« même » の後に挿入記号・« confiance, » の « , » に削除斜線

当該箇所の余白：« / δ » ; « , / » ; « / δ »

訂正前：Un peu de *petitesse*, même qui est le contraire de la générosité, de la confiance, dans les autres...

訂正後：Un peu de *petitesse* même, qui est le contraire de la générosité, de la confiance dans les autres...

初　版：Un peu de *petitesse*, même qui est le contraire de la générosité, de la confiance, dans les autres...〔修正なし〕

59. p. 187.

ページ上部の余白：« Carton pour insérer les dimensions du tableau de la Cène envoyées trop tard »〔一部裁断〕

本　文：« la grandeur du tableau, qui a »〔絵画の寸法が未入力。行を改め « l'on

conviendra » と続く〕

初　版：la grandeur du tableau, qui a 31 pieds 4 pouces de large, sur 15 pieds 8 pouces de haut, l'on conviendra...〔差し替え刷りによる修正〕

60. p. 201.

ページ上部の余白：« Vérifier à la copie »〔一部裁断〕

本　文：« médiocres » に削除斜線

当該箇所の余白：« modernes / »

訂正前：...si nos peintres médiocres peuvent se comparer aux anciens.

訂正後：... si nos peintres modernes peuvent se comparer aux anciens.

初　版：... si nos peintres modernes peuvent se comparer aux anciens.〔差し替え刷りによる修正〕

61. p. 209.

ページ上部の余白：« Errata »〔一部裁断〕

本　文：« *Cajo Gracco* » に削除線

当該箇所の余白：« *Ajace* »

訂正前：...qui envoyoit en exil l'auteur de *Cajo Gracco*...

訂正後：...l'auteur d'*Ajace*...

初　版：...l'auteur d'*Ajace*...〔差し替え刷りによる修正〕

62. p. 209.

本　文：« la » に削除線

当該箇所の余白：« sa / »

訂正前：...qui touchoit presque à la fin...

訂正後：...qui touchoit presque à sa fin...

初　版：...qui touchoit presque à sa fin...〔差し替え刷りによる修正〕

63. p. 213.

ページ上部の余白：« Errata »

本　文：« des » の « d » に削除斜線
当該箇所の余白：« l / »
訂正前：...comme des modernes.
訂正後：...comme les modernes.
初　版：...comme des modernes.〔修正なし〕

64. p. 220.
ページ上部の余白：« Carton »
本　文：« de » の « e » に削除斜線
当該箇所の余白：« / u »
訂正前：Mais le génie ardent de sculpteur...
訂正後：Mais le génie ardent du sculpteur...
初　版：Mais le génie ardent de sculpteur...〔修正なし〕
正誤表：« ...génie ardent de, lisez *génie ardent du sculpteur.* »

65. p. 220.
本　文：« la » に削除斜線
当該箇所の余白：« / le »
訂正前：E Pluto la gridò...
訂正後：E Pluto le gridò...
初　版：E Pluto la gridò...〔修正なし〕

66. p. 228.
本　文：« d'après Léonard, » の « , » に削除斜線
当該箇所の余白：« / : »
訂正前：...d'après Léonard, c'est Virgile...
訂正後：...d'après Léonard : c'est Virgile...
初　版：...d'après Léonard, c'est Virgile...〔修正なし〕

67. p. 240.

本　文：« en » の « e » と « n » に削除斜線
当該箇所の余白：« / ou »
訂正前：...en celui de M. Frigeri...
訂正後：...ou celui de M. Frigeri...
初　版：...en celui de M. Frigeri...〔修正なし〕
正誤表：« en celui, lisez *ou celui* »

68. p. 244.

本文の原註：« Voir Cricton » に下線
当該箇所の余白：« Voir Cricton, an inquiry etc. »
訂正前：Voir Cricton.〔行を改め « An inquiry into... » と続く〕
訂正後：Voir Cricton, an inquiry into...
初　版：Voir Cricton.〔行を改め « An inquiry into... » と続く〕〔修正なし〕
正誤表：« *Voir Cricton : An inquiry into, etc.* »

69. p. 266.

本　文：« Qu'importe »
当該箇所の余白：« Qu'importent / »
訂正前：Qu'importe ces détails fatigants...
訂正後：Qu'importent ces détails fatigants...
初　版：Qu'importe ces détails fatigants...〔修正なし〕
正誤表：« qu'importe, lisez *qu'importent* »

70. p. 1.〔見返し〕

1817, 20 juillet revenant des
Montagnes Beaujon, having
finished the Tour and preparing for
London ___ 186 liv. poids de marc.

71. p. 3.〔見返し〕

Distribution
Faite par le Vicomte
le 3 Aout 1817
à
MM. le Duc de la Rochefoucault
B[enjamin]. Constant
Duc de Brancas-Lauraguais
le C. Chaptal
Depin avocat
Berryer avocat
Jay du *Const*[*itutionn*]*el*
Dufresne S[ain]t. Léon (du *Mercure*)
C[om]^{te}. de Ségur g[ran]d. maître des C[érémonies].

10 Lafitte Banquier.
Roy Député
Le Ch[evalier]. Visconti

72. p. 5.〔見返し〕

MM. Bénaben du *Mercure*
Le D[uc]. de Choiseul-Praslin
Le C[omte]. de Tracy (4 7^{bre} a billet by him)
G[énér]al. Dessolles
C[om]te. Andréossy
C[om]te. Boissy d'Anglas
Thénard

20 Poisson
C[om]te. Laplace

De Jouy（du *Mercure*）
C[om]te. Français（de Nantes）
C[om]te. d'Hédouville Pair de France
D[uc]. d'Albuféra
P[rin]ce. d'Eckmühl

27 Boyer Chirurgien,
Raynouard
Lemercier,
Talma, 30 ex[emplaires].

73. p. 7.〔見返し〕
Mr Didot dit
16 ex[emplaires]. aux journalistes
10 remis aux éditeurs durant
l'impression.

74. p. 7.〔見返し〕
J'écris le 15 7bre à Mr. D. Fleet str[eet]. 109
50 of P. à 18 schillings
50 of R à 7 sch[illings]
ex[emplaires] des premiers pour l'*Ed*[*inburgh*]. *Rev*[*iew*].

75. p. 18.〔見返し、上下逆、『絵画史』についての備忘的書き込みではなく、『ローマ、ナポリ、フィレンツェ』（1817年）についての書き込み〕
5 7^{bre}. [septembre] 1817.
Rapport de Mr. de Caraman
6 Tours
Milan father
Milan son

Eug[ène]. + daugh[te]r.

oooo

Palais

and the [un mot illisible]

two times.

=

4 7bre. [septembre]

Conversation sur Rome – les moines

with Co.....enin [Cormenin] au Palais Royal

=

76. p. 22.〔見返し、上下逆〕

To send the Tour

to

Mme. de Staël	Jay
Récamier	Benaben
Miss Williams	Verninac
La C[om]tesse. de S[ain]te. Aulaire	Julien
Mme. de la Rue	Manuel av[oca]t.
Mme. la D[uche]sse. d'Abrantès	Dupin av[oca]t.
Mr. Lallemand	
Thénard	
Biot	
Poisson	
Gros peintre	
Andrieux	
Fontanes	
Le G[énér]al. Dessoles musicien	